玉永寺通信

2004.10
第２５号

発行：富山市水橋小出 52　玉永寺　　編集：石川正穂

十月二十日　日中　午後一時
二十一日　晨朝　午前十時
日中　午後一時半

宗祖親鸞聖人に遇う

報恩講

法話　康楽寺住職　瀧野諦淳師
法縁寺住職　稲垣一映師

追記
二十日朝九時半より
仏教婦人会が開催されます
お誘いあわせお参りください

子供たちから学ぶ

石川正生

本当の満足

隣の人より一歩前　そんな刹那的人生を
子供たちよ　過ごしてくれるな
どこまでいっても　満足などない
競うことなく　比べることなく
あなたの花を咲かせてくれ　おまえはおまえで充分
あの庭のバラのように　あの庭の松のように
人間成就の花を咲かせてくれ
そこに本当の満足が生まれる　　鈴木章子

さわやかな、秋晴れの日、小学校の子供たちが来て、本堂をスケッチしていた。

澄んだ目で、力強いタッチで描く絵を見たとき、若くして四人の子供をのこして還浄された鈴木章子さんの詩が、他と比較して幸せを計ることしか知らない自分の胸に響いてきた。

母の法要に寄せて

光寿院釋尼瑠璃、母の二十三回忌法要をご門徒の皆様の温かい支えによって勤める事ができました。厚く御礼申し上げます。

今年は例年になく暑い夏でした。その暑さの中で境内の百日紅（さるすべり）が初めて華やかにピンク色の大きな房を咲かせました。

母から「百日紅は、住職が戦争に行く前に植えて旅立った木」と教えられ、毎年眺めては今年こそきれいに咲いてほしいと願っていました。

願いであった法要も終わり、心が届いたのでしょうか、美しく咲いた百日紅。

見ているうちに、亡き両親に感謝の気持ちと戦争のない世界を念じる心で一杯になりました。

石川千穂子

玉永寺日誌

三月二十八日　住職がクモ膜下出血を発病し、手術を行うという出来事がありました。

四月一日～二日　玉永寺旅行会に三十五名の方々が参加しました。本山春の法要の参詣と琵琶湖観光を、坊守と副住職が引率しました。

五月二十三日　祠堂経と併せて、光寿院釈尼瑠璃二十三回忌法要を勤修いたしました。祠堂による内陣床補修、上壇彫物設置が完成し、きれいに修復された本堂で二百五十名余りの方々が参詣されました。ほんとうにありがとうございました。入院中であった住職も一時帰宅してお参りすることができました。

六月一日　住職が退院しました。幸い後遺症もなく、現在は再び法務や宗議会に勤しむ毎日をおくっています。

八月　境内がラジオ体操の会場になりました。毎朝六時半に子供たちが集まって、手足をのびのびとさせていました。

今、ベックという名前の犬を飼っています。最初のうち怖がっていた子供もいましたが、少しずつ慣れてきて、終わりの頃にはみんなでベックを可愛がるようになりました。

写真は最後の日に、記念に撮ったものです。ちょっと寂しそうな表情もありますね。

後で聞きますと「もうラジオ体操ないの？　毎日ラジオ体操があればいいのにね」と言っていたお子さんがいたそうです

八月十五日　十六日　暁天講座があり遠近各地からお参り下さいました。藤場俊基師「求める法と照らされる教え」、春秋賛師「三つの髻（もとどり）」の講題で法話をいただきました。分かりやすいお話なので、もっと多くの方々に聞いていただきたいものです。

九月二十六日　玉永寺委員会が開かれ本年度の行事、並びに予決算を協議しました。別紙の通り今年度のご依頼が決議されました。

十月二十日、二十一日、玉永寺の報恩講が勤修され、いよいよ年末にかけて、皆さんの家へ報恩講のお参りに参ります。

住職から一言

四月十二日より十四日，二泊三日，本山にて親鸞聖人御旧跡参拝奉仕団に清水堂、古西一男さんが参加されました。ご苦労様でした。

台風十八号と十九号が続いてやってきました。強風で本堂の瓦三十枚が飛ばされました。みなさんのところでも被害はあったでしょうか。お見舞い申し上げます。

次第に朝夕寒さが増してきます。皆さんのご自愛を念じます。

毎月二十八日午後二時より同朋の会が開催されています。もう五年目に入り、現在は親鸞聖人の和讃を学んでいます。皆さんもぜひご参加ください。

毎回、せっかく綺麗な写真があるのにモノクロでしか載せられないのが残念だったのですが、かなり思い切って、カラープリンターを購入しました。

購入して間もなくこの号を作りましたので、色使いなどまだ手探りです。みなさんに見てもらえるような紙面になるように、がんばります！　（正穂）

玉永寺通信
発行所　富山市水橋小出五二
真宗大谷派玉永寺
ＴＥＬ　０７６（４７８）０８４６
インターネットホームページ
http://www.ctt.ne.jp/~gyoku/